

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No329

(新著の紹介)

〈学ぶ学生〉の実像—大学教育の条件は何か—
濱中淳子先生 (早稲田大学教育・総合科学学術院・教授)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



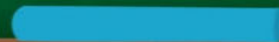
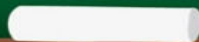
濱中淳子

はまなか じゅんこ

早稲田大学教育・総合科学学術院・教授

東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻博士課程修了。博士(教育学)。リクルートワークス研究所、大学入試センター研究開発部、東京大学高大接続研究開発センター教授等を経て、2019年4月より現職。

単著に『検証・学歴の効用』(勁草書房, 2013年)、『「超」進学校 開成・灘の卒業生』(ちくま新書, 2016年)、共著に『教育劣位社会』(岩波書店, 2016年)、編著に『大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか』(ミネルヴァ書房, 2019年)など



濱中淳子・葛城浩一 (2024). <学ぶ学生>の実像—大学教育の条件は何か— 勁草書房 (2024年12月)

- 序 章 大学生の学びを問い直す [濱中淳子]
- 第1章 余白を埋める——ノンエリート大学における学び [葛城浩一]
- 第2章 展望に縛られる——中堅大学における学び [山内乾史・葛城浩一]
- 第3章 道を切り拓く——エリート大学における学び [濱中淳子]
- 第4章 学びに魅了される——放送大学における学び [吉田文]
- 終 章 大学教育の条件は何か——知見と考察 [濱中淳子]



それではご覧ください

『〈学ぶ学生〉の実像－大学教育の条件は何か』

早稲田大学

濱中 淳子

濱中淳子
葛城浩一

〔編著〕

勁草書房

大学教育の条件は何か

〈学ぶ学生〉の実像

「大学固有の学び」という幻想

「エリート大学」から「ノンエリート大学」まで、インタビュー調査からあぶりだされる〈学ぶ学生〉のリアル。かれらの成長は「学生の成長」なのか？ 新しい切り口からの大学改革論。

《執筆メンバー》

濱中淳子（早稲田大学）：編者

葛城浩一（神戸大学）：編者

吉田文（早稲田大学）

山内乾史（佛教大学）

大多和直樹（お茶の水女子大学）

武藤浩子（早稲田大学）

勁草書房より2024.12出版

科学研究費補助金 基盤B 2020-2023

現代日本における「大学生の学習行動」に関する総合的研究

の成果として

ポイント4点

【問い】

学生が学びに意欲的になる条件を問うのではなく、正課に意欲的に取り組んでいる学生がどのような学びを展開しているのかを問う。

【データ】

量的調査ではなく、質的調査。80名を超える学生へのインタビュー調査から12名の語りを使用。

【対象】

ノンエリート大学、中堅大学、エリート大学の学生 + 放送大学の学生。

【枠組み】

大学の学びへの階段を三段階に分けた枠組み図をもとに分析。

ポイント4点

【問い】

学生が学びに意欲的になる条件を問うのではなく、正課に意欲的に取り組んでいる学生がどのような学びを展開しているのかを問う。

【データ】

量的調査ではなく、質的調査。80名を超える学生へのインタビュー調査から12名の語りを使用。

【対象】

ノンエリート大学、中堅大学、エリート大学の学生 + 放送大学の学生。

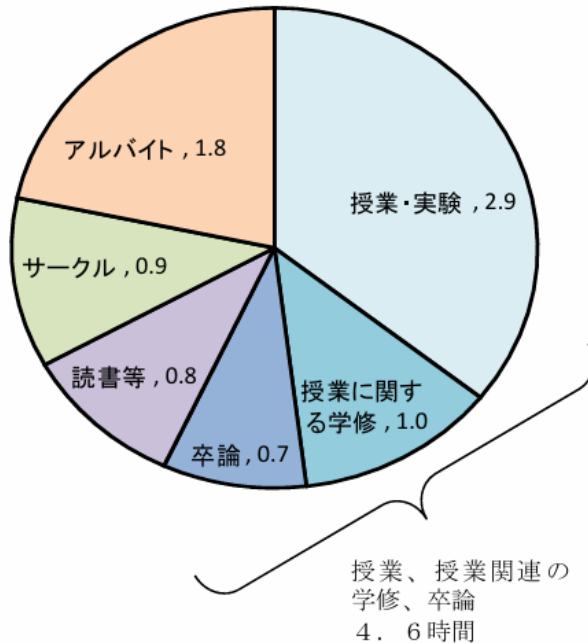
【枠組み】

大学の学びへの階段を三段階に分けた枠組み図ををもとに分析。

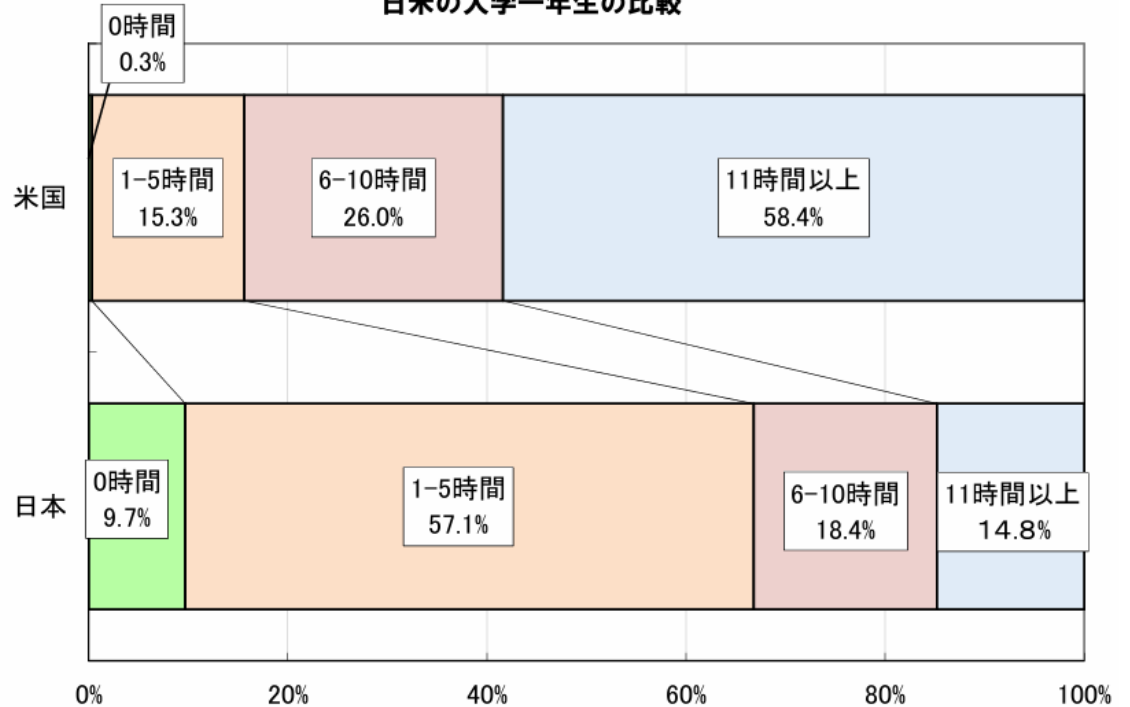
学生の学修時間の現状

我が国の学生の学修時間(授業、授業関連の学修、卒論)はその約半日の一日4.6時間とのデータもある。これは例えばアメリカの大学生と比較しても少ない。

学生の活動時間の分布(計 8.2時間)



授業に関連する学修の時間(1週間あたり)
日米の大学一年生の比較



→学生が学ぶようになったその先にみられる景色はどのようなものか？

ポイント4点

【問い】

学生が学びに意欲的になる条件を問うのではなく、正課に意欲的に取り組んでいる学生がどのような学びを展開しているのかを問う。

【データ】

量的調査ではなく、質的調査。80名を超える学生へのインタビュー調査から12名の語りを使用。

【対象】

ノンエリート大学、中堅大学、エリート大学の学生 + 放送大学の学生。

【枠組み】

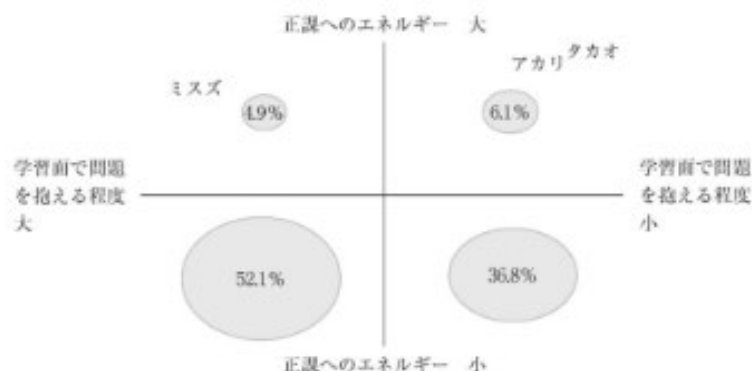
大学の学びへの階段を三段階に分けた枠組み図ををもとに分析。

調査の概要

	機関タイプ	所在地	調査期間	対象者数
N大学	ノンエリート大学	関西	2021-2022年度	18名
M1大学	中堅大学	関西	2022年度	8名
M2大学		関西	2022年度	8名
E大学	エリート大学	関東	2020-2022年度	34名
放送大学		関東	2021-2022年度	18名

→ 4つの機関タイプそれぞれ3名の学生のストーリーを描写・分析

図表1-1 正課へのエネルギー×学習面で問題を抱える程度



1. 「三重苦」のなかで——ミスズの場合

まず、ノンエリート大学では多数派を占めている、学習面で問題を抱える程度の大きな学生のケースとして、ミスズを取り上げよう。

1.1 高校を中退して

ミスズは、実学系のβ学科に所属しながら、教職課程も履修している学生である。進路多様校を中退した経験をもち、通信制高校からβ学科に進学した。N大学では通信制高校から進学する学生は決して珍しくはないが、そこに至る経緯は人それぞれである。まずはその経緯を把握するところからミスズの「学びの物語」をみていくことにしたい。

ミスズ..中学校のときもあんまり学校に行ってなかったんですよ、私。その流れで来て、だるいなとか、しんどいなとか、そういうのがあって。で、高校で

もそのままずるずるそれが続いて、あんまり高校も行けてなくて。それで、一回辞めたんですよ。

聞き手..それは何年生の頃？

ミスズ..一年生です。

聞き手..一年生の頃の何月ぐらい？

ミスズ..辞めたのが六月とか。

聞き手..結構早いね。

ミスズ..そうなんですよ。あまり行ってなかったの。

聞き手..辞めたあとに何をしていたの？

ミスズ..辞めたあと一年ぐらいたんずら遊んでたんですよ、私。ちょっと仕事っていうか、先輩の紹介で仕事しながらやって。「あ、このままじゃやばいな」と思って、で、通信制高校に入るようになった。

ミスズは、友達との巡り合わせが災いして中学二年時の途中あたりから生活態度を大きく崩していく。中学三年時にはほとんど学校に行かなくなり、「マンションの横にたまったりとか、ゲームセンター行ったりとか、ブリクラ撮ったりとか」、そんな怠惰な日常を過ごしていたという。親が家庭教師をつけてくれたことでなんとか「偏差値三五」の進路多様校に滑り込むことができたものの、怠惰な生活態度を改めることができず、あまり高校にも行かないまま、一年時の六月には退学に至っている。

ポイント4点

【問い】

学生が学びに意欲的になる条件を問うのではなく、正課に意欲的に取り組んでいる学生がどのような学びを展開しているのかを問う。

【データ】

量的調査ではなく、質的調査。80名を超える学生へのインタビュー調査から12名の語りを使用。

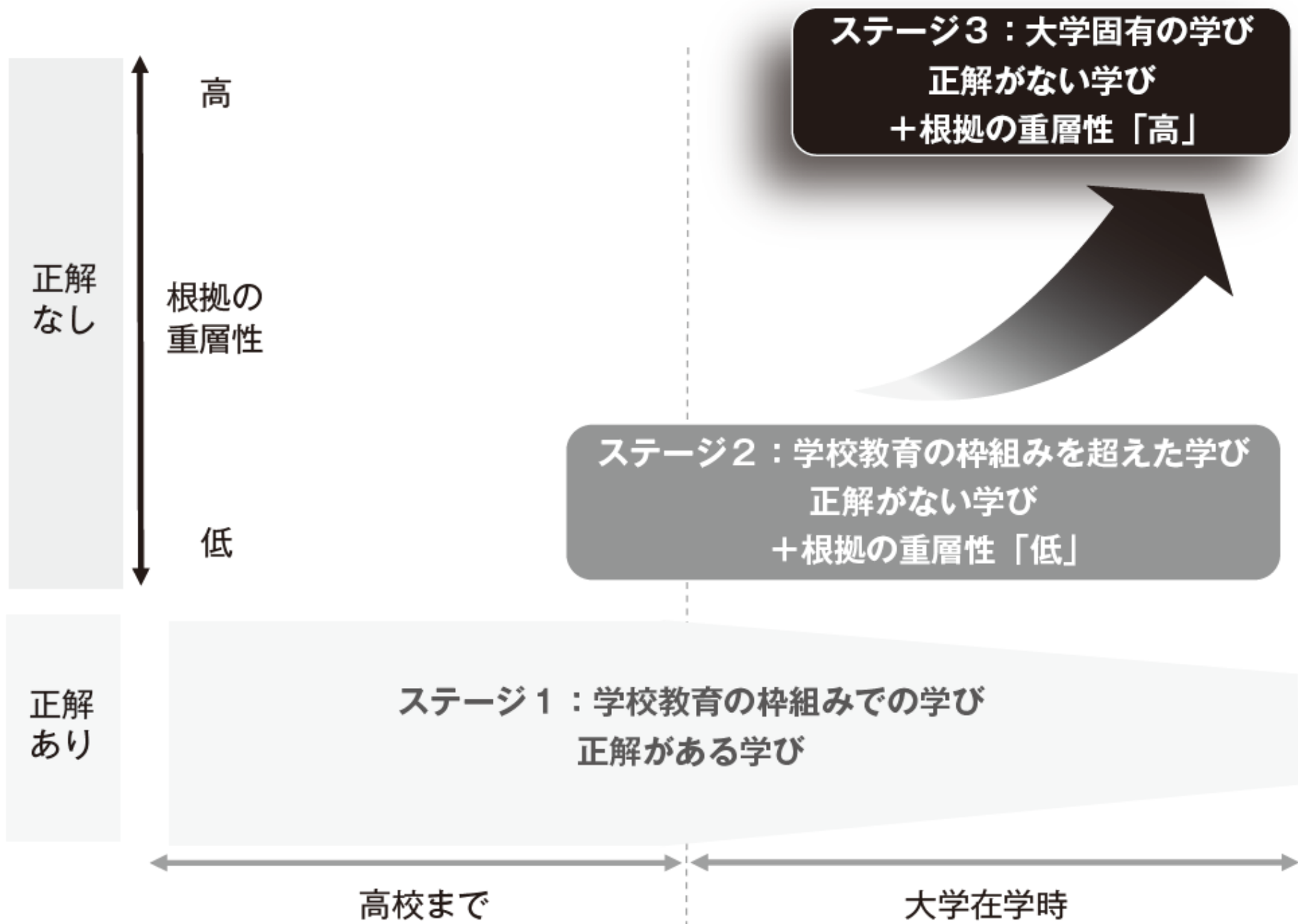
【対象】

ノンエリート大学、中堅大学、エリート大学の学生 + 放送大学の学生。

【枠組み】

大学の学びへの階段を三段階に分けた枠組み図ををもとに分析。

図表序-6 分析枠組み（高校までの学びと大学在学時の学び）



知見と考察

第1章 余白を埋める—ノンエリート大学における学び

「三重苦」の中で—ミスズの場合
いい流れにのって—タカオの場合
全部「S」を取ろう—アカリの場合

第2章 展望に縛られる—中堅大学における学び

警察官になりたい—マリの場合
つまらない授業に耐える—トオルの場合
もっと学びたい—モミジの場合

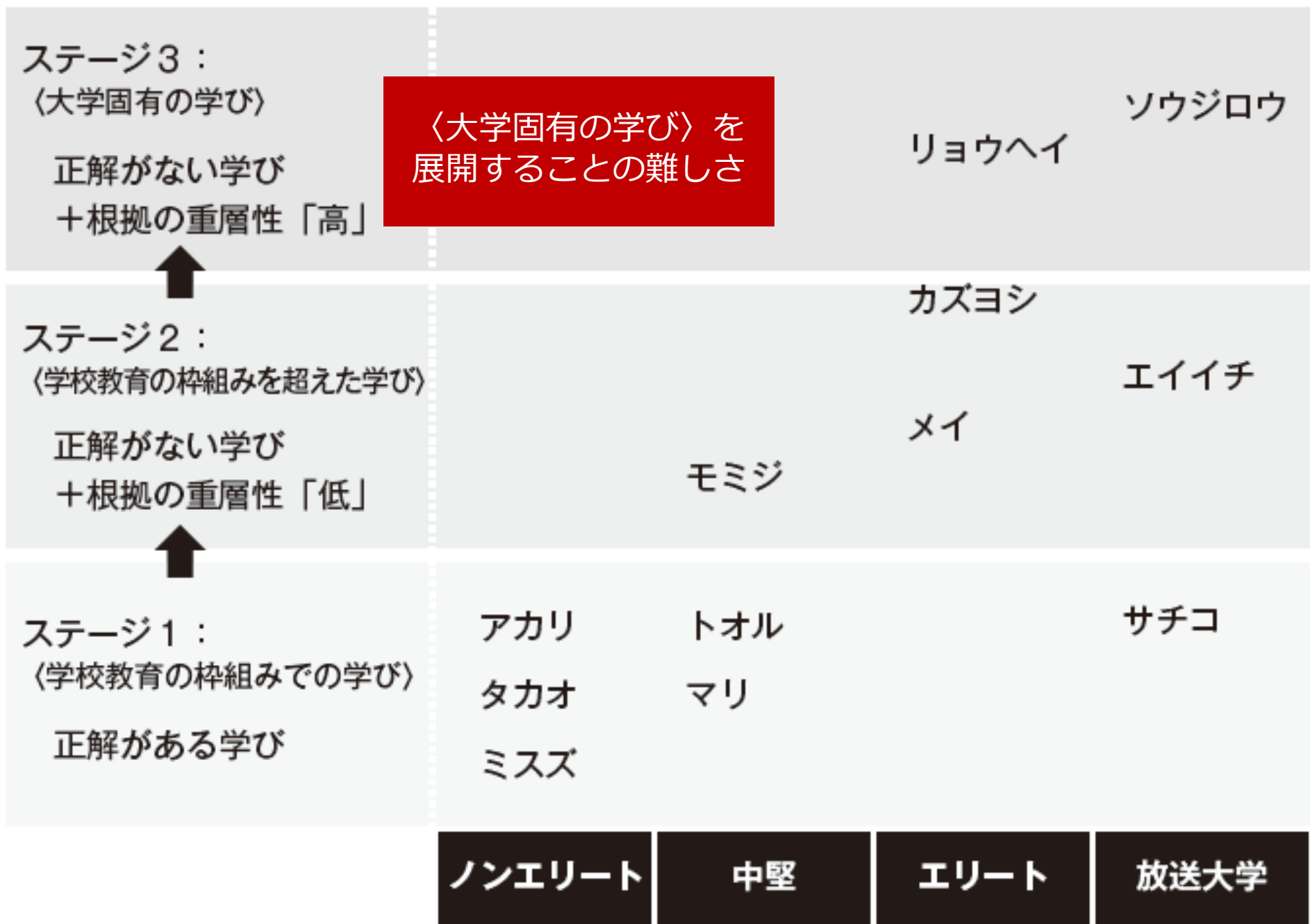
第3章 道を切り拓く—エリート大学における学び

ゼミに全力投入したけれども—メイの場合
教員との禅問答のなかで—カズヨシの場合
指定校推薦の枠があったから—リョウヘイの場合

第4章 学びに魅了される—放送大学における学び

大卒になりたい—サチコの場合
友人に囲まれて—エイイチの場合
分析を重ねる—ソウジロウの場合

図表終-1 対象者 12 名の位置づけ



考察～ 〈大学固有の学び〉 を支える条件

1. 大学へ進学するまでに〈学校教育の枠組みでの学び〉を十分に経験していること。そうでなければ、〈学校教育の枠組みでの学び〉を展開することが大学での学びの中心に据えられてしまう。
2. 大学教員による指導。しかも、学部時代の早い時期から要所要所で、マンツーマンに近い指導を受けることが望ましい。

+ 「大学での学び=手段」となると、〈大学固有の学び〉は展開にしにくい。

資源の現状… 〈大学固有の学び〉は幻想か？

大学での学びをどう捉えるべきか？ Cf.手がかりとしてのソウジロウの学び